

オオルリボシヤンマ

Aesha nigroflava

ヤンマ科



オオルリボシヤンマ

名前の由来

大きなルリボシヤンマの意で、胸部と腹部の青緑色の斑点を「瑠璃色の星」にみたてたもの。ヤンマの語源はよくわかっていない。トンボのうち、田んぼの周辺に発生する中型のトンボを「田ん坊(たんぼう)」と呼び、山地の方にすむ大型のトンボを「山ん坊(やまんぼう)」と呼んだのが、それぞれ「トンボ」と「ヤンマ」になった、と考えては、という説もある。漢字名：大瑠璃星蜻蛉

形態的特徴

体長76～86mm。大型で胸部と腹部に青色の斑紋がある。
類似種：ルリボシヤンマ、イイジマルリボシヤンマ。

両種ともに胸部の青色部の形、オスは交尾器上面の突起の有無で区別できる。

生息環境・分布

平地から山地の抽水植物が生育する池沼に生息している。ルリボシヤンマよりも広く深い池沼を好む傾向にある。

北海道内では、全域に分布。

分布：日本特産種。国内では、鹿児島県から北海道まで分布しているが、北海道以外では高原に生息している。

十勝地方では、十勝川沿いの池や沼、生花苗沼、緑ヶ丘公園池、新得町の拓鉄公園など、数は少ないが平地から山地の池沼に普通に生息している。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、ボウフラ、小魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカやアブ、ハエ、ハチ、チョウなどの昆虫類やクモ類を捕食する。小型のトンボ類を食べることもある。1日に体重の10%の餌

を食べるといわれている。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとクモ類（網にかかった場合）やチゴハヤブサなど小型の猛禽類やタンチョウに捕食されることもある。

繁殖生態・寿命

3～4年間の幼虫時期を経て、成虫は7月上旬から10月上旬に見られる。産卵期は9～10月。産卵はメスが単独で抽

水植物の組織内に産卵する。寿命：卵・幼虫期間2～4年、成虫期間1～2ヶ月。

興味深い話

■十勝地方で普通に見られる大型のトンボはこのルリボシヤンマの仲間。夏は池沼の上を飛行していることが多く、間近で見ることが難しいが、秋の産卵期になると、抽水植

物へ産卵しているところを間近で見ることができる。

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

配慮事項

抽水植物に卵を産み付けるため、生息には抽水植物の存在が必要。



普段は折りたたまれている下くちびる

オオルリボシヤンマの幼虫（ヤゴ）

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993
「北海道のトンボ」二橋愛次郎 エコネットワーク 2002
「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988
「カラー日本のトンボ」石田昇三・浜田康 山と溪谷社 1973
「自然の観察事典⑦ギンヤンマ観察事典」小田英智・松山史郎

偕成社 1996
「名前といわれ 昆虫図鑑」栗林慧・大谷剛 偕成社 1987
「近畿のトンボ」近畿のトンボ編集委員会 関西トンボ談話会 1984
「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(草花)
在来種

(草花)
外来種

哺乳類

(鳥類)
水辺

(鳥類)
草原・樹林